

『増補改訂 本願寺史』第4巻刊行にあたって (第4回)

第三章 教団組織の改革

その概要

宗政・立法・司法の三権として独立させ、宗政は宗政総局が、立法は宗会が、司法は審判院が取り扱うとされました。そのなかで宗政総局を代表する総長は、宗会の選挙で決定されることとなるなど、教団の民主化への取り組みが進められました。

◎第三章の構成

本願寺史料研究所が編纂した『増補改訂 本願寺史』第4巻の第三章は、アジア・太平洋戦争敗戦後の本願寺教団組織の変遷を中心に記述しました。この章の内容は次のような構成となっています。

- 一 組織改革
- 二 総局の変遷
- 三 築地別院の復興
- 四 戦災別院の復興
- 五 基幹運動
- 六 研究機関

▼戦後の組織改革

1945（昭和20）年8月の敗戦を受けて、それまで本願寺教団でとられてきた戦時規定や職制は、廃止や改定がなされました。

そして、同年12月に文部省によって宗教法人令が公布されると、新たな社会に対応すべく、翌年の1946年9月には新宗制と新宗法が發布されました。

新宗制では、宗名を「浄土真宗」とし、それまでの「法主」を「門主」と称し、門徒は「家」から「個人」へと解放するなどとされました。そして、宗務機関を

さらに、各地域の意見を宗政に反映させるために、1946（昭和21）年には全国を26の教区に分けしましたが、各地域の実態に即して、翌年には28教区とされました。その後も教区の再編成がなされ、1949（昭和24）年には31教区となり、1983（昭和60）年には沖縄開教事務所が開設されました。

時代の進展による業務の多様化や複雑化に対応するため、宗務所組織の改編がおこなわれ、1962（昭和37）年には、法式・教学・組織・内務の4局を置く総局部門の新職制へと変更されました。

さらに、1980（昭和55）年に修行されることが決定した即如宗主の伝灯奉告法要にあわせて、1978（昭和53）

年度から3期12年の長期計画が策定されて、伝灯奉告法要を機縁として教団の長期展望のもとで発展へと導こうという目標が設定されました。さらに、1992（平成4）年度からは8年に及ぶ宗門長期計画（新長期計画）が策定され、教学の振興、人材の育成、境内地の近代的整備などに取り組むこととなりました。

今回の第4巻では、2012（平成24）年4月の浄土真宗本願寺派と宗教法人「本願寺」の新たな体制の発足までを対象として記述しました。

なお、敗戦後から2012年3月までの内局と総局の変遷についても表に示しています。

▼築地別院と戦災別院の復興

築地別院の復興については、第4巻が対象とした時代範囲からさかのぼりますが、1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災による堂舎の類焼からの再建とともに、社会事業への取り組み、さらには太平洋戦争による和田堀廟

所などの被災とその後の復興を中心に、2012（平成24）年の直轄寺院・築地本願寺の成立までを概観しました。

さらに、太平洋戦争の空襲によって焼失した仙台別院・富山別院・福井別院・岐阜別院・名古屋別院・津村別院・鷺森別院・広島別院・鹿児島別院について、その後の各別院による復興への取り組みをたどりしました。

▼基幹運動

本願寺教団は、明治以降も江戸時代から続いてきた家を単位とした檀家制度に依存してきました。ところが、戦後になって産業の発展による都市への人口の流動化が進むなかで、新たな社会のしくみに対して、いかに個人個人の信仰として確立していくかを模索することから起こった運動の変遷について概説したのがこの節です。

1962（昭和37）年には門信徒会運動が開始され、1979（昭和54）年から基幹的な運動として門信徒会運動・同

朋運動を展開することとなりました。そして1980（昭和55）年の即如宗主伝灯奉告法要の「教書」においてはじめて「基幹運動」という語が公式に用いられ、翌年から正式に宗門基幹運動推進計画として、正式に教団の運動の名称とされていきました。この運動のもと、1997（平成9）年には「御同朋の社会をめざす法要」の修行や、2000（平成12）年の「同朋運動五〇周年記念大会」などが開催されています。

▼研究機関

戦後の教団改革にもなって設置・改変された付置研究所などの研究機関を整理しておきました。

なかでも門信徒への布教については、1951（昭和26）年に布教の調査と布教使養成を目的とした布教研究所が設置され、その後1985（昭和60）年には教学本部が設置されますが、1988（昭和63）年には教学本部が廃止されて浄土真宗教学研究所が設置されました。さら

に2003（平成15）年には教学伝道研究センターとなり、2012（平成24）年には浄土真宗本願寺派総合研究所と変更されました。

また、本願寺教団における教義の根本としての聖典の編纂・刊行や、歴史史料をもとにした歴史編纂事業、法要儀礼への音楽の導入などに対する研究活動のための研究所の変遷についても概観しました。

戦後の日本社会の移り変わりに対応すべく本願寺教団も組織改革が進められてきましたが、今後も門信徒との関係を考慮しつつ諸改革が進められていくことでしょう。

本願寺史料研究所

『増補改訂 本願寺史』第4巻

8800円（税込・送料別）

A5判、908ページ

※ご注文は本願寺出版社まで

—15年をかけて本文編完結—

親鸞聖人750回大遠忌を機縁として、これまでの研究成果を反映させ、半世紀ぶりにより充実した形で再編纂した増補改訂版。

本願寺史料研究所 編

最新刊
本願寺史第四巻がついに完成



増補改訂 本願寺史

「増補改訂 本願寺史 第四巻」登場！

第四巻では勝如宗主継職から概ね2000（平成12）年までを対象に叙述し、勝如宗主・即如宗主・専如門主のご事績に加え、教団組織・主たる法要・教化団体・国際伝道・教育機関・社会活動・同朋運動・平和運動など多岐にわたるテーマから教団全体について体系的に取り上げ、本願寺教団の近現代史を振り返る。

A5判／908頁／函入 8,800円（税込）

第一巻

既刊

親鸞聖人のご生涯から戦国時代末期までの中世における本願寺教団の成立とあゆみについて。

A5判／626頁／函入
5,500円（税込）

第二巻

既刊

安土・桃山時代から江戸時代末期までの近世における本願寺教団のあゆみについて。

A5判／726頁／函入
5,500円（税込）

第三巻

既刊

幕末維新期から昭和初期までの本願寺教団の近代化に伴う動向について。

A5判／736頁／函入
5,500円（税込）



本願寺出版社



0120-464-583 FAX 075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川蓮花屋町下ル（西本願寺） <https://hongwanji-shuppan.com/>

発送梱包手数料
無料

